



受賞式に出席された皆様（左から星野、岸本、常松、高橋、嘉本、景山の各氏）

市議会六月定例会

平成二十九年雲南市議会の六月定例会が九日から二十三日までの日程で開催されました。開会にあたり速水市長の施政方針演説の中で春の叙勲の披露がありました。続いて、大東町の「赤川ほたる保存会」が環境大臣表彰、加茂図書館（児童へ読み聞かせを行っているラ・ブックの皆様と図書館長、左写真）が文部科学大臣表彰を受けたとの紹介がありました。皆様の永年のご努力に敬意を表します。

今回の受賞に併せ、加茂まちづくり協議会から加茂図書館に対し、昨年度の収益金の一部が図書購入費用として贈られました。

定例会では補正予算（下表）の審議が行われたほか、農業委員会委員十九人の任命を全会一致で同意決議しました。

また、健康づくり拠点整備事業では加茂B&G海洋センター改修工事で、建築主體工事を植田建設・田中工業・都間土建JVが五億七千二十四万円、機械設備工事をイマックス・山陰クボタ・木次設備JVが一億九千三百三十二万円と決定しました。これにより、いよいよ今夏から加茂B&G海洋センターの温水プールの工事が始まることとなります。なお、工事期間中は体育館も利用できませんのでご注意ください。

主な6月補正

事業名	所管	金額
①健康づくり拠点開設準備事業	健康づくり政策課	4,524
②畜産酪収益力強化農補助金	林業畜産課	61,276
③高速道路整備関連事業	都市計画課	60,485

①加茂B&G海洋センタープールを拠点に展開される運動プログラムの構築
②畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業施設整備事業補助金。
畜産クラスターを活用し収益力・生産基盤の強化を行う
③加茂バスストップ付近に設置予定のスマートインターチェンジへのアクセス道路の測量設計

その他、「島根原子力発電所一号機の廃止措置（廃炉）計画の認可」について、安全な作業工程を進めることを前提に同意しました。

瑞風、雲南市デビュー

六月十七日からJR西日本の豪華寝台列車「瑞風」の運行が始まりました。瑞風には五つのコースが設定されており、雲南市に立ち寄るのは「山陽山陰周遊二泊三日」のコースです。



市役所前を通過して吉田町方面に向かう瑞風バス（6月22日、午前9時ごろ）

二十二日の朝、乗客を乗せた瑞風バスが初めて雲南市に姿を現しました（写真）。乗客は二十一日午前、京都を出発し山陽線を下って下関へ、下関から山陰線を上るルートで夜間、島根県に入りました。午前六時前に浜田を通過、穏やかな日本海を見ながら朝食、そして宍道に八時二十二分に到着。宍道駅から専用バスに乗り換えて雲南市にやってきました。市内の周遊先は、田部邸土蔵群↓菅谷たたら山内↓食の杜で昼食↓須我神社参拝↓神楽の宿です。乗客は雲南市を堪能したのち、松江の明々庵に向かいました。

雲南・松江両市の滞在時間は八時間半、

雲南市への立ち寄りには木曜日となっています（運行のない週もあります）。雲南市内はバスによる周遊であり、乗客が買い物をする機会や施設への入場も限られています。従って、直接の経済効果は多く無さそうです。しかし、市内に残されている日本の原風景、そして市民の皆様とのふれあい、おもてなしに感動してもらったことは十分できます。再び雲南市を訪れてみたい、という「目に見えない経済効果」に期待したいと思っています。



フェイスブックしてます。
お気軽にアクセスください。



議会のあり方を考える

高知県の大川村では議員のなり手が不足し、民意の決定機関を議会ではなく住民総会方式への変更を検討し始めたとの報道があります。大川村は人口が約四百名の小さな村で、雲南市の約百分の一と小さな自治体です。規模は違うものの議員のなり手不足の問題では雲南市も同様です。昨年の市長及び市会議員の選挙も結果的には無投票になったことで、議員定数のあり方を考え直そうとの機運も出てきているところでは。

一般的に言われることとして、議員定数を減らして一人当たりの議員報酬を引き上げ、（金銭的に）魅力ある職業にしたい、という考え方は、そうすることで立候補者を増やし、選挙の洗練を受ける仕組みを確保することで議会制民主主義を守っていく、という考え方です。

そこで、議員定数以外に議会のあり方について選取肢を広げて考えてみたいと思います。議会に与えられた使命を果たし、議会活動が活性化できれば幸いです。

(1)議員定数の考え方として(前提として議員報酬全体の総額を現行通りとして)、

① 議員定数を減らす

② 議員定数を増やす

(2)議会の開催日程について

① 平日の夕方・夜に開催

② 土日の日中に開催

③ 土日の夕方・夜に開催

(3)前項(1)と(2)のミックス

(1)の①は前述したとおり一般的に言われている改定案であり、また、技術的に変更しやすい解決方法と思われます。ただ、議員数が減ること幅広く市民の声を取り上げるという点では、開かれた議会に逆行するかもしれません。(1)の②は、なり手不足の現状では意味が薄いでしょう。

一方、(2)の①、②、③は、私たちには馴染みが少ない方式ですが、①のようなやり方はヨーロッパでは導入実績があります。平日の夕方・夜に開催時間を変更することで、日中仕事をしている女性が参加しやすくなったとのこと。

単なる(1)の②では意味がないものの(2)の①、②、③を組み合わせれば意味を持つようになるかもしれません。また、(1)の①と組み合わせることも選取肢の一つとなるでしょう。

ただ、議会の開催日程の変更やそれに伴う開催日を変更するとなると、行政側のシステムを変更しなければならぬ問題もあります。また、(2)は立候補者の多様性に寄与することができるかもしれませんが、現行の社会システムと順応できるかという点では全くの未知数です。

その他の方法もあると思いますので、検討の余地は十分にあると言えますでしょう。

たかつさんの一般質問

中林たかしは、六月議会で①危機管理について、②林業の育成策について、の二点を一問一答方式で質問しました。

危機管理について

問

事故は想定外で起こる。市民生活に係る危機管理について点検しておきたい。市立病院及び市役所のBCP（事業継続計画）の策定状況について伺う。

答（病院事務部長・統括危機管理官）

今年度中の策定を目指し、作業中である。

問

昭和三十九年、加茂町は未曾有の集中豪雨により大水害に見舞われた。危険個所の点検や災害時の対応は十分か。

答（統括危機管理官）

土砂災害警戒区域（イエローゾーン）は市内に三千七百か所ありハザードマップにして全世帯に配布している。今後、レッドゾーンや浸水想定区域も含めて改訂していく。自主防災組織でも周知徹底をお願いしたい。

問

有害鳥獣駆除も大切だが、誤射や暴発により市民が巻き込まれてはならない。事故防止策について伺う。

答（農林振興部長）

雲南市有害鳥獣駆除班に対し、事故防止の徹底を申し入れている。関係団体と協議を重ね防止策に努めていく。

問

市道に隣接する山林に倒木寸前の樹木があり、市民が事故に巻き込まれる危険性がある。管理の責任者は誰か。

答（建設部長）

民有地の樹木は個人財産で、基本的には

所有者が管理すべきものである。所有者と連絡が取れない場合、伐採の必要性があれば親戚や自治会長の方と協議のうえ市で対応している。

問

判例によれば、倒木が通行人を直撃し死亡した事件で、行政が道路の管理瑕疵、営造物責任を問われ損害賠償した。危険を知らせる看板だけでは瑕疵の予見性を問われかねない。倒木の危険性のある樹木の伐採に関し、補助金の創設を提案したい。

答（建設部長）

補助金の創設は考えていない。県の説明によれば、落石事故は（道路）管理者の責任、倒木事故は所有者の責任とのことである。判例については、これから研究していく。

林業の育成策について

問

林業は、やり方次第で今後の産業の核ともなり得る可能性を秘めている。一方、課題の多いことも確かだ。森林資源の蓄積量、樹齢分布、課題について伺う。

答（農林振興部長）

利用期を迎えた森林面積は、スギが7割、ヒノキは3割、松は9割となっている。年齢が進んでいるので、均衡のとれた年齢構成に誘導する必要がある。集約化を推進し、循環型林業を目指していく。

問

8 齢級（35 ～ 40 年生）を過ぎた森林資源が多くなっているが、認識と対策について伺う。

答（農林振興部長）

利用期を迎えた森林が多く、若齢級が少ない。林齢バランスが非常に悪くなっている。森林資源の造成や蓄積がこれまでの施業だったが、これからは生産、循環への転換が必要と考えている。

問

高性能林業機械の導入が進められているが稼働率が悪い。原因として路網整備の遅れが影響しているのではないか。

答（農林振興部長）

路網整備の遅れが原因。施業の集約、効率的な林業を基本に整備を進める。

問

林業の活性化のためには、森林組合との連携が欠かせない。今後あり方を伺う。

答（速水市長）

市内四地域で森林整備モデル団地事業を行っている。雲南市有林を核に隣接する民有林を市が長期受委託契約し、雲南市が一括して森林組合に信託するものである。森林組合は、施業面積を増やすことで施業計画も実施しやすくなり、ひいては林業従事者の増加にもつながる。

問

自伐型林業という考え方もある。また、そのネットワーク化も進められているが考え方について伺う。

答（速水市長）

そう目指さなければならぬ。また、（森林組合など）受け手の大規模化が必要であり、行政として支援していく考えである。

早いもので今年も半年が過ぎました。さる五月、残念なことにコウノトリの母親が誤射される痛ましい事故が発生しました。幸せを運ぶとされるコウノトリが、こともあろうに酉年に一家離散の憂き目にあってしまった。幸いにも四羽のヒナは順調に育っているとの由、一安心です。再び、雲南市の上空をコウノトリが飛び交うことを期待します。また、上野動物園からはパンダの赤ちゃんが誕生したとのニュースが飛び込んできました。今年生まれの赤ちゃんに幸多かれと祈ります。



（たかし）